

第111回総務委員会と経産省ヒアリング記録

1. 開催日時 平成25年3月19日(火)
- | | | |
|-------|------------|----------|
| 12:00 | 第111回総務委員会 | 鉄鋼会館804 |
| 14:45 | 経産省ヒアリング | 経産省会議室6F |
| 16:15 | 業界紙記者と懇談 | 当組合会議室 |

2. 第111回総務委員会

出席者

笹田幹雄(理事総務委員長)
高木 建(理事長)
酒匂雅信(副理事長・東京支部長)
高木唯夫(副理事長・東海支部長)
浅野博之(副理事長・大阪支部長)
木村昭夫(副理事長・九州支部長)
柘野(事務局)

- 議 題 (1) 経済産業省1Qヒアリング資料の検討について
(2) 第38期通常総会の出席状況について
(3) 〃 役割分担(案)について
(4) 組合員の入脱会状況について
(5) 今後の会合予定について

経 過

笹田委員長の司会により議事が進められた。

(1) 経済産業省1Qヒアリング資料の検討について

事務局より標記資料について説明、一部修正の上了承された。

(資料は別項参照)

(2) 第38期通常総会の出席状況について

5月17日(金)～18日(土)沖縄県名護市で開催される次期通常総会の出席者数(3月26日現在)は、以下の通りである。

- | | | |
|-------|------------------------|------|
| ①通常総会 | : 組合員48名 | |
| ②懇親会 | : 賛助会員10名、組合員53名、記者他4名 | 計67名 |
| ③ゴルフ会 | : 賛助会員7名、組合員32名、記者他0名 | 計39名 |

(3) 第38期通常総会の役割分担(案)について

標記役割分担は、一部修正のうえ了承された。

(4) 組合員・賛助会員の入脱会状況について

事務局より、本年度の入脱会状況に関し報告があり、了承された。

- ①組合員： 入会3社、退会6社 3月末現在156社・6事業所
- ②賛助会員：入会1社、退会2社 3月末現在21社

(5) 今後の会合予定について

本誌1ページに掲載の「会議・会合予定表」をご参照ください。

3. 25年度1Q経済産業省ヒアリング

出席者

経済産業省

山下鉄鋼課長、石神課長補佐他

厚板シャ工組

高木理事長、酒匂東京支部長、高木東海支部長、浅野村大阪支部長、
木村九州支部長、笹田理事総務委員長、
柘野（事務局）

経過

最初に、高木理事長より、「アベノミクスで日本経済の景況感は活性化しているが、シャ業界の仕事量は少なく、底這い状態が続き、3ヵ月前の状況とあまり変化はない。地区や分野によっては徐々に回復の動きが出てきたが、全国総量で見れば、依然厳しい状況が続いている。いずれにしても我々は、そこそこの量の中で、いかに収益を上げるかを各社が追求していきたい。従い、行政当局には当業界の窮状をご理解いただき、引き続き内需喚起のための重点施策を途切れることなく、早期に打ち出していただくよう一層のご支援をお願いしたい。

また、当組合は、足掛け5年にわたり『建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン』の普及促進事業に取り組んでいるが、本年度は推進母体となる活動組織を編成し、検討を開始した。今は建材の商取引の実態を調査・整理し、そのうえで契約行為の更なる効率化、合理化を推し進めるための研究を行っているところである。直の取引先であるファブ業界とは連携の可能性を探るべく、協議中である。我々シャ業界からゼネコンや設計会社への働き掛けは、直接的な取引関係にないため発信力に欠ける。行政の力を借りなければ話が上部の業界に届かない。今後シャとファブ業界は歩調を合わせて進めてまいる所存である。ついては鉄鋼課のお力添えを是非賜りたい。近々貴課へご説明に伺うので、ご意見をいただくとともに、中小企業庁、国交省、あるいは公取委にもご相談に上がりたいので、その節は鉄鋼課のお口添えをいただければ幸いである。今後ともご指導のほど宜しくお願いしたい」との挨拶・要望が行われた。

続いて、各支部長から地区情勢報告が行われた後、鉄鋼課より、「名古屋駅前の建築案件はまだ出ていないのか。出ていないとすれば、その理由は」、「免震装置関係の需要はまだ増えるのか」、等の質問が出され、種々意見が交換が行われた。

以上